

科目名	解剖生理学Ⅱ	担当講師	小野弘（医師）
開講年次	1年生前期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	30時間＋試験1時間
学習目的	人体を構成している骨や筋、臓器等の位置、名称、構造を理解する。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖を系統的に学習し、看護する上に必要な人体の構造が理解できる。</li> <li>2. 生理を系統的に学習し、看護する上で必要な人体の機能が理解できる。</li> </ol>		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液・間質液及びリンパ</li> <li>2. 体液と電解質</li> <li>3. 循環</li> <li>4. 呼吸</li> <li>5. 消化と吸収</li> <li>6. 栄養と代謝・体温と調節</li> <li>7. 腎臓及び尿路</li> <li>8. 内分泌</li> <li>9. 骨格</li> <li>10. 筋</li> <li>11. 神経系</li> <li>12. 感覚器</li> </ol>		
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院		
参考図書			
関連科目	今後学ぶ疾患・看護につながる。また、看護に必要な臨床判断力の基礎的知識となる。		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	病理学総論	担当講師	自見至郎（医師）
開講年次	1年生後期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	15時間(試験1時間を含む)
学習目的	人体組織における病的状態は、形態的にどのような変化、反応を示すのかということを知り、疾患を学ぶ上での裏付け知識とし、専門分野へと関連づける。		
学習目標	基本的な病変の原因、発生機序、形態的变化が理解できる。		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学とは</li> <li>2. 先天性異常とは</li> <li>3. 代謝異常とは</li> <li>4. 循環障害とは</li> <li>5. 炎症と免疫、膠原病</li> <li>6. 老化と死</li> </ol>		
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。		
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 第6版		
参考図書			
関連科目	今後学ぶ疾患・看護につながる。		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	臨床治療論 I	担当講師	梅林由衣 (栄養士) 廣田美和子 (看護師)
開講年次	1 年生後期	単位数	1 単位
授業形態	講義	時間数	30 時間 + 試験 1 時間
学習目的	人間の生命現象を生化学的に判断する力を養うとともに、さらに栄養学の基礎知識を踏まえ、根拠をもって、実際に患者の健康状態に合わせてどのように応用していくか、治療の一つである食事療法や運動療法について学ぶ。		
学習目標	1. 生体を構成する物質とその代謝について理解できる。 2. 生体が正常な営みをするのに必要な栄養について理解し、それぞれの疾患に対し、効果的な食事療法の実践について理解できる。 3. 看護の視点でのリハビリテーションの概念と技術を理解できる。		
授業計画・内容	1. 栄養と生化学 1) 臨床栄養学の基礎知識 (生化学含む) 2) 食品成分と食事摂取基準 3) 日常生活と栄養 4) 療養生活と栄養 5) 疾患別の栄養食事療法 6) 栄養食事指導の実際	梅林由衣 (20時間)	
	第1回 リハビリテーション看護の役割がわかる。(第1章から第4章)	廣田美和子	
	第2回 リハビリテーション看護の役割がわかる。(第1章から第4章)		
	第3回 運動・摂食・排泄に関するリハビリテーション (第5章・第6章)		
	第4回 呼吸・高次脳機能障害に関するリハビリテーション (第7章)		
第5回 心臓リハビリテーションについて (第8章)			
成績評価方法	終講試験 (ペーパーテスト) を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。 ※内訳は梅林講師：60点、廣田教員：40点		
教科書	系統看護学講座 医学書院 (栄養学 ・ リハビリテーション看護 )		
参考図書	解剖生理学		
関連科目	今後学ぶ疾患・看護につながる。また、看護に必要な臨床実践力の基礎的知識となる。		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	微生物学	担当講師	中西義信（薬学博士）
開講年次	1年生後期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	15時間（試験1時間含）
学習目的	微生物の知識と感染症等の健康障害を起こす病原微生物について理解し、感染予防及び対処方法を学ぶ。感染対策としての看護の前提を学ぶ。		
学習目標	微生物の特徴と生体へ及ぼす影響を理解し、その予防と治療に必要な基礎的知識が理解できる。		
授業計画	回数	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第1回	微生物学総論①・②	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
	第2回	微生物学総論③、感染症とその予防①・②	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
	第3回	感染症とその予防③・滅菌と消毒、化学療法剤①	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
	第4回	化学療法剤②、免疫学概論①・②	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
	第5回	免疫学概論②、アレルギー①・②、自己免疫疾患	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
	第6回	細菌学各論①・②、真菌学概論	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
	第7回	ウイルス学概論①・②・③	準備・予習：テキストの該当ページを読む。 復習：講義プリントのメモを整理する。
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。		
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 第14版		
参考図書			
関連科目	感染の知識を高め、今後学ぶ疾患・看護につながる。		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	薬理学	担当講師	川口敏弘 (薬剤師) 川崎圭祐 (薬剤師)	
開講年次	1年後期	単位数	1 単位	
授業形態	講義	時間数	30 時間 + 試験 1 時間	
学習目的	薬理を理解し、現場で自信を持って看護・薬物療法が遂行出来るようになる			
学習目標	薬理学の基礎知識を理解し、薬物療法の作用機序・人体への影響について理解する			
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考 (準備・予習・復習など)
	第 1 回	川口敏弘	薬物動態・薬の投与経路 (吸収・分布・代謝・排泄)	復習：薬の投与経路別の作用発現時間の違い 薬が投与されて体外に出ていくまでの動き
	第 2 回	川口敏弘	細菌・ウイルスなどの増殖を抑える薬 (抗菌薬・抗ウイルス薬)	予習：<生物学>原核生物と真核生物の違い 復習：選択毒性とは？
	第 3 回	川口敏弘	がんを治療する薬 1 (抗がん剤)	復習：抗がん剤は、いつ・どのような副作用が起こるのか
	第 4 回	川口敏弘	受容体について・がんを治療する薬 2 (分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬)	復習：がん細胞が異常増殖する機序
	第 5 回	川口敏弘	免疫に作用する薬・炎症を抑える薬 1 (免疫抑制薬・グロコリン・リクイン・ステロイド)	予習：<免疫学>生体の免疫の働き 復習：ステロイド薬の生理作用・副作用
	第 6 回	川口敏弘	炎症を抑える薬 2・抗アレルギー薬 (NSAID s・抗ヒスタミン薬)	予習：<病理学>アラキドン酸カスケード 復習：NSAID s・抗ヒスタミン薬の副作用
	第 7 回	川口敏弘	自律神経に作用する薬 (交感神経作動薬・抗コリン薬・局麻)	予習：<解剖学>各臓器での自律神経の支配 復習：抗コリン薬の禁忌・副作用
	第 8 回	川口敏弘	循環器系に作用する薬 1 (降圧薬・狭心症治療薬・抗凝固薬)	予習：<病理学>狭心症の病態 復習：抗血小板薬と抗凝固薬の違い
	第 9 回	川口敏弘	循環器系に作用する薬 2・救急で使う薬 (抗不整脈薬・利尿薬・心不全治療薬)	予習：<病理学>心不全の病態 復習：ジギタリス製剤の位置づけ・副作用
	第 10 回	川崎圭祐	中枢神経系に作用する薬	予習：<病理学>中枢神経疾患の病態 復習：中枢伝達物質と病態・治療薬の関係
	第 11 回	川口敏弘	呼吸器・消化器に作用する薬	予習：<病理学>喘息・消化性潰瘍について 復習：テオフィリン製剤の副作用
	第 12 回	川崎圭祐	内分泌系に作用する薬	予習：<病理学>糖尿病の病態 復習：糖尿病治療薬分類、それぞれの特徴
	第 13 回	川崎圭祐	消毒薬・希釈・分取量・投与量の計算	復習：中水準・低水準消毒の違い 薬液の%の意味を説明
	第 14 回	川崎圭祐	麻薬性鎮痛薬・消化器系に作用する薬 2 (癌性疼痛・制吐薬・下剤)	復習：麻薬性鎮痛薬の副作用・対処法
第 15 回	川口敏弘	まとめ 第1～14回の振り返り 筆記試験について	準備：授業プリント1回～14回	
成績評価方法	終講試験 (ペーパーテスト) を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。			
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 第15版			
参考図書				
関連科目	今後学ぶ疾患・看護につながる			
備考 (学生へのメッセージ)	薬は医療・介護の場で広く使われています。医療人として薬理を学ぶことで、患者の状態や病態・治療への理解がより深まります。本講義が、現場に出た時に自信を持って活躍する一助になればと願います。			

科目名	社会福祉Ⅰ	担当講師	末永浩二（社会福祉士）
開講年次	1年生前期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	15時間（試験1時間を含む）
学習目的	人間が幸福で健康的かつ文化的な生活を実現する為、生活の維持向上に向け、社会福祉・社会保障という制度は重要な意味をもつ。看護の健康問題に関わることから、問題解決の為の社会資源・制度について理解した上で、看護活動へ活用する為の、基礎知識を学ぶ。（社会保障と社会福祉の概念を体系的に理解するとともに、社会や経済の変化を理解し、今後の社会保障、社会福祉の方向性や動向を学ぶ；社会保障制度のうち、医療保険制度、介護保険制度、所得保障制度について学ぶ）		
学習目標	1. 対象者の生活上の諸問題に対しての社会保障制度が理解できる。		
授業計画	回数	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第1回	到達目標：社会保障制度が、国民の生活の安定を図り、最低限度の生活を保証する公的な制度であること及び具体的な保証内容について理解する。 内容：社会保障制度の概要	
	第2回	到達目標：社会福祉を支える法制度を学習し、現在の社会保障制度の背景や社会福祉を実際に担う組織・従事者について理解し、臨床現場での多職種連携に役立つことを理解する。 内容：社会福祉制度の概要	
	第3回	到達目標：少子高齢化や人口減少、経済成長率の低下や雇用の流動化等、社会や経済の変化を理解し、今後の社会制度・社会福祉の目指している方向や基本的な動向について理解する。 内容：現代社会の変化と社会福祉の動向	
	第4回	到達目標：日本に医療保障制度の成立の経緯・現在の制度の内容と今後の動向について理解する。日本の医療保障制度と基盤となる医療保険制度と保険診療の仕組みについて理解する。 内容：医療保障	
	第5回	到達目標：介護保険制度の成立の経緯や現在の制度の概要と今後の課題を理解する。また、老人福祉・老人保健と介護保険の関係を学び制度の本質を理解する。 内容：介護保険	
	第6回	到達目標：人々を支える所得保障制度の全体概要と、具体の年金保険、社会手当、労働保険について理解する。 内容：所得保障	
	第7回	到達目標：生活保護制度を中心とした貧困や低所得問題に対する公的扶助制度を理解し、今までの変遷や制度適用の実際を理解する。の経緯 内容：我が国と諸外国の社会福祉の歴史を学び、時代の社会情勢と生活上の問題を福祉の理念と関連付け理解する。 内容：社会福祉の実践と医療・看護（連携）、社会福祉の歴史	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。		
教科書	専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3（医学書院）		
参考図書			
関連科目	全ての専門科目に通じる		
備考 （学生へのメッセージ）	※3年生 社会福祉Ⅱにおいても、同じテキストを使用します。		

科目	関係法規 I	担当講師	熊谷久美（保健師）
開講年次	1 年生後期	単位数	1 単位
授業形態	講義	時間数	1 5 時間（試験 1 時間を含む）
学習目的	国民として健康な生活を維持する為に必要な法の理解と、看護業務に携わる人の身分や業務に関する法を学ぶ。		
学習目標	1. 健康な生活を維持する為に必要な法と、看護業務に携わる法律が理解できる。		
授業計画	回数	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第 1 回	<p>目標：法の概念と衛生法の概念について学び、その重要性を説明できる。</p> <p>内容：法の概念、衛生法、厚生行政のしくみ</p>	課題：法の概念と衛生法の重要性
	第 2 回	<p>目標：保健師助産師看護師法と看護師等の人材確保の促進に関する法律について学び、各法律の目的、定義、規定されている内容を説明できる。</p>	課題：保助看法の目的・規定内容
	第 3 回	<p>内容：保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律</p>	
	第 4 回	<p>目標：医療法の目的、医療提供の理念、定義等について学び、その概要を説明できる。</p>	課題：医療法の目的・理念定義・病院等の管理・人員・構造施設・医療計画等
	第 5 回	<p>内容：医療法の目的、医療提供の理念、定義、医療の安全確保、病院等の管理・人員・構造施設、医療計画等</p>	
	第 6 回	<p>目標：看護職者が協働する多職種の関係する基本的な法規についてわかる。</p>	課題：医療法の目的・理念定義・病院等の管理・人員・構造施設・医療計画等
	第 7 回	<p>内容：医事法について：医療法、地域医療介護総合確保推進法、医療提供施設の定義、医療に関する情報の提供、医療安全管理、開設の規定（病床の種類）、病院等の管理、病院等の人員、診療に係る記録、医療提供体制の確保 等</p>	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度（医学書院）		
参考図書	国民衛生の動向		
関連科目	看護は法の上になり立っている。これから学ぶ全ての専門科目に通じる。		
備考 （学生へのメッセージ）			

科目名	公衆衛生	担当講師	専任教員
開講年次	1年生 8月～10月	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	15時間 (試験1時間を含む)
学習目的	人々の健康は、社会環境や生活環境の変化と深いかわりを持つ。看護の対象である人間の健康を守る為には、個人だけでなく、その個人を取り巻いている社会にも視点をあてて看護する必要性を学ぶ。組織化された地域社会の努力や協力によって疾病を予防し、生命の延長を図ると共に積極的に心身の健康を維持・増進し、健康な社会を実現する方法を学ぶことを目的とし設定した。		
学習目標	1. 公衆衛生のヘルスプロモーションを学び、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場の健康作り、地域での総合的な健康作りを推進する方法論が理解できる。 2. 公衆衛生に関する統計情報と衛生行政を知り、看護の役割が理解できる。		
授業計画	回数	項目	内容
	第1回	公衆衛生の概念と公衆衛生のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生の歴史から生活、行政、社会情勢と密接なつながりがあることを知る。</li> <li>公衆衛生の活動対象と公衆衛生専門職と関係職種、関係機関及び住民との連携・協働について学び、看護の役割を考える。</li> </ul>
	第2回	集団の健康を捉える手法～疫学・保健統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の健康状態を把握する方法を学ぶ。</li> <li>保健統計データの見方がわかる。</li> <li>身近な保健統計データから地域の健康状態を知る。</li> </ul>
	第3回	環境と健康 国際保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球規模の環境問題と食品安全衛生等対物保健について学び、健康との関連を考える。</li> <li>国際的な保健課題とその対策を知る。</li> </ul>
	第4回	地域における公衆衛生の実践 ①～母子保健・成人保健・高齢者保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ライフステージや健康レベルに沿った保健活動の法的根拠を知り、実際に行われている保健活動について、事例をもとに学習する。</li> <li>個人や家族、集団、地域といった対象に対する健康支援の手法を学ぶ。</li> <li>地域保健を支える関係機関、多職種との連携の必要性を学ぶ。</li> </ul>
	第5回	地域における公衆衛生の実践 ②～精神保健、障害者保健・難病保健	
	第6回	地域における公衆衛生の実践 ③～感染症・健康危機管理・災害保健	
	第7回	地域における公衆衛生の実践 ④～学校保健・職域保健	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。		
教科書	専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生 第14版		
参考図書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
事前学習・事後学習 (授業時間外の学習)			
関連科目			
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	看護学概論	担当講師	南 智美 (看護師)
開講年次	1 年生前期	単位数	1 単位
授業形態	講義	時間数	30 時間 + 試験 1 時間
学習目的	看護の根幹となる看護の概要を学ぶ。		
学習目標	1. 看護とはどのような実践であるかについて、看護の理念に関する看護職全体の国際的合意を予引きとして理解できる。 2. 看護を行う上での倫理観を培うことができる。 3. 看護の対象者としての人間、看護の提供者、看護職の養成制度を踏まえて、新しい看護のあり方を考えることができる。		
授業計画・内容	回数	授業計画	備考 (準備・予習・復習など)
	第 1 回	看護の本質	
	第 2 回	看護の役割と機能について	
	第 3 回	看護実践とその質保証に必要な要件	
	第 4 回	看護の継続性と連携	
	第 5 回	看護の対象理解	
	第 6 回		
	第 7 回	国民の健康状態と生活	
	第 8 回		
	第 9 回	看護の提供者	
	第 10 回		
	第 11 回	看護における倫理	
	第 12 回	看護の提供のしくみ	
	第 13 回		
	第 14 回	広がる看護活動	
第 15 回			
成績評価方法	終講試験 (ペーパーテスト) を行い 100 点を満点とし、60 点以上を合格とし評価します。		
教科書	基礎看護学 [1] 看護学概論 第 17 版		
参考図書			
関連科目	人間と倫理・心理と行動・人間と教育・健康支援論・公衆衛生・社会福祉 関係法規・基礎看護技術・専門分野		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	基礎看護技術 I	担当講師	成吉章江 (看護師) 廣田美和子 (看護師) 松本英美子 (看護師)																																																																																																																																												
開講年次	1 年生前期	単位数	1 単位																																																																																																																																												
授業形態	講義	時間数	30 時間 + 試験 1 時間																																																																																																																																												
学習目的	看護の対象に適した基本的な看護技術を学ぶ。																																																																																																																																														
学習目標	1. 看護技術の意義が理解できる。 2. ヘルスアセスメントの意義を理解し、対象の身体状態を正確に把握できる視点を持つことができる。 3. 看護活動を安全・安楽に効果的に行う技術が習得できる。 4. 感染予防の観点から看護における安全について、基礎的知識が理解できる。 5. 人間関係成立の方法を理解し習得できる。																																																																																																																																														
授業計画・内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">日 月</th> <th rowspan="2">学習目標</th> <th rowspan="2">単元の具体的な内容</th> <th colspan="3">担当教員</th> <th rowspan="2">学習形態</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>成吉</th> <th>松本</th> <th>廣田</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 14</td> <td>看護技術について学ぶ</td> <td>看護技術とは「安全・安楽を守る技術(様々な報告・患者の訴え防止策・安全な看護環境の整備(転倒・転落、外傷予防))とは、看護における記録報告の重要性について(基礎看護技術1テストについて)</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>講義</td> <td rowspan="17">ワークシート 演習・筆記試験</td> </tr> <tr> <td>4 14</td> <td>医療におけるコミュニケーションの重要性を学ぶ</td> <td>コミュニケーションの構成要素、コミュニケーションの方法、効果的なコミュニケーションについて</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 21</td> <td>学習支援の対象者と看護の役割を学ぶ</td> <td>対象者に応じた支援の進め方および指導方法、教材について学ぶ。</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 21</td> <td>環境調整の技術を学ぶ</td> <td>病室環境のアセスメント、病室を整える役割(器具の調整・シーツ交換)</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 21</td> <td>環境調整の技術を学ぶ</td> <td>臥床患者のリネン交換の方法(演習)</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 28</td> <td>感染防止の技術を学ぶ</td> <td>感染とその予防の基礎知識(スタンダードプリコーション、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い)</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 28</td> <td>感染防止の技術を学ぶ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 1</td> <td>感染防止の技術を学ぶ</td> <td>無菌操作・感染性廃棄物の取り扱い(演習)</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 1</td> <td>ヘルスアセスメントの意義目的、方法を学ぶ</td> <td>健康歴およびセルフケア能力と全体の概観の把握、フィジカルアセスメントについて</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 19</td> <td>バイタルサイン測定の実習を学ぶ</td> <td>計測、バイタルサインの観察とアセスメントの実習を実施する。</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 19</td> <td>呼吸系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ</td> <td>呼吸器系のフィジカルアセスメントの説明を受け、呼吸器聴取とアセスメントの実習を演習を演習して学習する。</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 26</td> <td>循環器系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ</td> <td>循環器系のフィジカルアセスメントの説明を受け、心音聴取とアセスメントの実習を演習を演習して学習する。</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 26</td> <td>腸部のフィジカルイグザミネーションを学ぶ</td> <td>腸部の聴診および触診の実習とアセスメントを演習を演習して学習する。</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 2</td> <td>運動器系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ</td> <td>筋骨格系のフィジカルアセスメントを学ぶ。</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 9</td> <td>脳神経系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ</td> <td>脳神経系のフィジカルアセスメントを学ぶ。</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 23</td> <td>筆記試験(50分)</td> <td>※100点満点の試験を50点に換算する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>技術試験50点 筆記試験50点</td> </tr> <tr> <td>6 16</td> <td>基礎看護技術 I 技術試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>専任教員</td> <td>技術試験50点 筆記試験50点</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>合計</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日 月	学習目標	単元の具体的な内容	担当教員			学習形態	評価	成吉	松本	廣田	4 14	看護技術について学ぶ	看護技術とは「安全・安楽を守る技術(様々な報告・患者の訴え防止策・安全な看護環境の整備(転倒・転落、外傷予防))とは、看護における記録報告の重要性について(基礎看護技術1テストについて)	2			講義	ワークシート 演習・筆記試験	4 14	医療におけるコミュニケーションの重要性を学ぶ	コミュニケーションの構成要素、コミュニケーションの方法、効果的なコミュニケーションについて		2			4 21	学習支援の対象者と看護の役割を学ぶ	対象者に応じた支援の進め方および指導方法、教材について学ぶ。		2			4 21	環境調整の技術を学ぶ	病室環境のアセスメント、病室を整える役割(器具の調整・シーツ交換)			2		4 21	環境調整の技術を学ぶ	臥床患者のリネン交換の方法(演習)			2		4 28	感染防止の技術を学ぶ	感染とその予防の基礎知識(スタンダードプリコーション、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い)			2		4 28	感染防止の技術を学ぶ				2		5 1	感染防止の技術を学ぶ	無菌操作・感染性廃棄物の取り扱い(演習)			2		5 1	ヘルスアセスメントの意義目的、方法を学ぶ	健康歴およびセルフケア能力と全体の概観の把握、フィジカルアセスメントについて	2				5 19	バイタルサイン測定の実習を学ぶ	計測、バイタルサインの観察とアセスメントの実習を実施する。	2				5 19	呼吸系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	呼吸器系のフィジカルアセスメントの説明を受け、呼吸器聴取とアセスメントの実習を演習を演習して学習する。	2				5 26	循環器系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	循環器系のフィジカルアセスメントの説明を受け、心音聴取とアセスメントの実習を演習を演習して学習する。	2				5 26	腸部のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	腸部の聴診および触診の実習とアセスメントを演習を演習して学習する。	2				6 2	運動器系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	筋骨格系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	2				6 9	脳神経系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	脳神経系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	2				6 23	筆記試験(50分)	※100点満点の試験を50点に換算する。					技術試験50点 筆記試験50点	6 16	基礎看護技術 I 技術試験					専任教員	技術試験50点 筆記試験50点				合計	16	4	10		
日 月	学習目標				単元の具体的な内容	担当教員				学習形態	評価																																																																																																																																				
		成吉	松本	廣田																																																																																																																																											
4 14	看護技術について学ぶ	看護技術とは「安全・安楽を守る技術(様々な報告・患者の訴え防止策・安全な看護環境の整備(転倒・転落、外傷予防))とは、看護における記録報告の重要性について(基礎看護技術1テストについて)	2			講義	ワークシート 演習・筆記試験																																																																																																																																								
4 14	医療におけるコミュニケーションの重要性を学ぶ	コミュニケーションの構成要素、コミュニケーションの方法、効果的なコミュニケーションについて		2																																																																																																																																											
4 21	学習支援の対象者と看護の役割を学ぶ	対象者に応じた支援の進め方および指導方法、教材について学ぶ。		2																																																																																																																																											
4 21	環境調整の技術を学ぶ	病室環境のアセスメント、病室を整える役割(器具の調整・シーツ交換)			2																																																																																																																																										
4 21	環境調整の技術を学ぶ	臥床患者のリネン交換の方法(演習)			2																																																																																																																																										
4 28	感染防止の技術を学ぶ	感染とその予防の基礎知識(スタンダードプリコーション、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い)			2																																																																																																																																										
4 28	感染防止の技術を学ぶ				2																																																																																																																																										
5 1	感染防止の技術を学ぶ	無菌操作・感染性廃棄物の取り扱い(演習)			2																																																																																																																																										
5 1	ヘルスアセスメントの意義目的、方法を学ぶ	健康歴およびセルフケア能力と全体の概観の把握、フィジカルアセスメントについて	2																																																																																																																																												
5 19	バイタルサイン測定の実習を学ぶ	計測、バイタルサインの観察とアセスメントの実習を実施する。	2																																																																																																																																												
5 19	呼吸系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	呼吸器系のフィジカルアセスメントの説明を受け、呼吸器聴取とアセスメントの実習を演習を演習して学習する。	2																																																																																																																																												
5 26	循環器系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	循環器系のフィジカルアセスメントの説明を受け、心音聴取とアセスメントの実習を演習を演習して学習する。	2																																																																																																																																												
5 26	腸部のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	腸部の聴診および触診の実習とアセスメントを演習を演習して学習する。	2																																																																																																																																												
6 2	運動器系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	筋骨格系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	2																																																																																																																																												
6 9	脳神経系のフィジカルイグザミネーションを学ぶ	脳神経系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	2																																																																																																																																												
6 23	筆記試験(50分)	※100点満点の試験を50点に換算する。						技術試験50点 筆記試験50点																																																																																																																																							
6 16	基礎看護技術 I 技術試験					専任教員		技術試験50点 筆記試験50点																																																																																																																																							
			合計	16	4	10																																																																																																																																									
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト)・技術試験 配分：ペーパーテスト50点 技術試験50点(成吉教員50点、松本教員10点、廣田教員40点)／100点←50点へ換算 100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。																																																																																																																																														
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [ 2 ] 基礎看護技術 I 医学書院 第18版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [ 3 ] 基礎看護技術 II 医学書院 第17版																																																																																																																																														
参考図書																																																																																																																																															
事前学習・事後学習 (授業時間外の学習)																																																																																																																																															
関連科目	解剖生理学 臨床治療論 I 生活と物理 薬理学 微生物学 人間と倫理 看護学総論 人間と教育 倫理の入門 各専門分野につながる																																																																																																																																														
備考 (学生へのメッセージ)																																																																																																																																															